

常任委員会視察報告

総務委員会（城間和行委員長）・産業建設委員会（宇根本茂委員長） 平成30年10月19日（金）

総務委員会・産業建設委員会では、平成30年10月19日に市内視察研修を実施しました。平成30年7月豪雨災害に関わり、総務委員会委員は防災・減災の観点から、産業建設委員会委員は復興復旧の観点から、それぞれ視察研修の実施を検討していましたが、調整の結果、合同で行うこととなったものです。合同視察研修では、現地視察と研修を行いました。両委員会の委員は、土砂災害が発生し被災者の救助活動が行われた現場を確認した後、消防局に移動して、救助活動に関する説明を受けました。実際に救助活動にあたった消防職員から、救助活動の経過について、資料とともに詳しい解説を聞き、過酷な気象状況の中で一刻を争って行われた救助活動の緊迫した内容に対し、両委員会の委員は、それぞれの立場から質疑と意見交換を行いました。



民生委員会（岡野長寿委員長） 平成30年11月6日（火）～7日（水）

名古屋市フードバンク事業は、家庭で余っている食品を回収場所に持ち寄ってもらい、NPO法人を通じて、地域の福祉団体や生活困窮者に届けています。持参者数は年間約100～300人で、内容は米、インスタント・レトルト食品、調味料、缶詰、お菓子等。ゴミ非常事態宣言後のゴミ処理量40%減、資源分別量2倍、埋め立て処分量約80%減の成果を上げています。

掛川市では、地域医療センター「ふくしあ」を5カ所に配置、中部「ふくしあ」には、医療・保健・福祉・介護・教育の中核ゾーンとして、病院、特別支援学校、特養老人ホーム、保育園等を配置しています。ワンフロアに「訪看」「行政」「社協」「包括」の4つの看板がかけられ、行政の責任の下、看護師や保健師、ケアマネージャーが連携して市民への相談活動等を展開していました。



文教委員会（荒川京子委員長） 平成30年11月8日（木）

文教委員会では御調中央小学校を訪問し、5年生と特別支援学級のタブレットを活用した授業を視察しました。40台の児童用、1台の指導用のタブレットを使用し、教師と委託を受けたICTサポート指導員が手助けをします。児童たちは想像力と構成力を駆使して課題に挑戦していました。特別支援学級の板書が苦手な子にとってもタブレット学習は非常に効果的で学習しやすいようでした。次に、勤労青少年ホーム内の適応指導教室を視察しました。この教室は、様々な理由で学校に通えなくなった生徒が学校へ帰るための道筋をつけることが目的で、規則正しい生活基盤が築けるよう指導されています。出席は単位として認められ、試験も受けることができます。ここに通う児童・生徒の多くが学校に戻れるようになっており、実績を上げています。



産業建設委員会（宇根本茂委員長） 平成30年11月6日（火）～7日（水）

産業建設委員会は、11月6日に外国人観光客おもてなし事業を行っている東京都文京区、7日に「誰もが安心して住み続けることができる街」を目指されている千葉県佐倉市のユーカリが丘にお伺いしました。まず、文京区では、東京2020年のオリンピック・パラリンピック開催に伴う国内外観光客の増加を見据えた「商店街エリアプロデュース事業」として、専門プロデューサーを配置して、商圈の分析、商店街への助言、事業遂行等の支援を行っています。また、商店街が自ら事業を検討することをサポートすることも事業の特徴です。2日目のユーカリが丘は、計画から50年近いビジョンを遂行する中で、人々の暮らしを真剣に考え、確かな計画性をもって、生まれてから亡くなるまでの安心した街づくりを続け、現在も人口増加が続いています。

